

いつかわかります

校 長 武井 正明

まもなく 2024 年が終わります。

年末年始、幼い頃は両親と弟、家族 4 人で小さな家ですごしていました。

特に御馳走があったわけではありません。記憶にあるのは、穏やかな親父の表情と白菜鍋、レコード大賞と紅白を見ながら迎える、いつもの平凡な正月です。

それが中学あたりから段々家族の間にも互いに距離が出てきました…。

弟が大学進学で上京して働き盛り。年末もなかなか帰省とはいかず、自分が結婚して、弟も結婚し、いつしか弟と妻が入れ替わって、4 人で年を越すようになりました。

親父は無事家族で正月を迎えられる嬉しさを、ひたすらやかましく飲むという行為で表現します。ある年の暮れ、親父は飲みすぎます。それを私がいい加減にしろよと咎める。息子に意見されるのが面白くない親父は憎まれ口を叩く。それをまた、よせばいいのに私が机を叩いて怒鳴ってしまった。それに驚いた親父は、息子に怒鳴られるなんて、こんな悔しいことはない、妻に向かって、正明は親に向かって、こうやって怒鳴ったんだと机を叩きながら号泣します。おふくろと妻は呆れ顔。自分に優しさが足りないのです。いつもこんな調子でした。

それから随分時が経ちました。今父の酒は、ちょっと口をつける程度で終わりです。そして私に「注いでやる」と言ってききません。

今なら、あの時の父の気持ちがわかるのです。

だから、出来る限り長生きしてほしい。私の、心からの願いです。

みなさん、ご家族と迎えられる年末年始は、思っているほどいつまでも続くものではありませんよ。自分は親不孝だなあと思っている吉中生が、もしいたら、その人に伝えたい。面倒くさくても、ただただ、年末年始はご家族と一緒にすごしてあげなさい。

あなたがそばにいてだけで、親はもう十分しあわせなのです。一緒にいてだけで、あなたは親孝行しているのですよ。

娘と一緒に過ごす年末年始は、今年が最後になるのかもしれませんが…。ひたすら酔い潰れてしまいたい大晦日です。

吉中生のみなさん、保護者の皆さま、地域の方々。

四月に赴任して、あっという間の 2024 年でした。たいへんお世話になりました。

来年も全力で頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

そして健康で、よいお年をお迎えください。